

令和元年度 学校評価【計画書・報告書】

加賀市立三木小学校 校長 三部 健春 印

学校教育ビジョン	確かな学力を身につけ、心豊かでたくましく、郷土を愛する三木の子の育成	～ 一人一人の存在が大切にされ、あたたかい人間関係が築かれる学校 ～
○ 学校教育目標	確かな学力を身につけ、心豊かでたくましく、郷土を愛する三木の子の育成	～ 一人一人の存在が大切にされ、あたたかい人間関係が築かれる学校 ～
○ めざす児童像	進んで学ぶ子 心豊かな子 たくましい子	
○ めざす教師像	児童や保護者に信頼される教師 危機管理意識の高い教師	お互いを認め、高め合う教師
○ 基本方針	(1) 自分のめあてを明確にし、進んで学ぶ子を育てる (2) 感謝や思いやりの心を持ち、心豊かな子を育てる (3) 健康や体力の向上に努め、たくましい子を育てる (4) 保護者、地域と連携し、信頼される学校づくりに努める (5) 使命感・責任感を持ち、教育への情熱を絶やさぬ教師力の向上を図る (6) 教職員のメンタルヘルスの増進に努め、業務改善を推進する	

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果(中間)	判定結果(最終)	今後の改善策
①教育課程	児童一人ひとりの学力向上に向けた取組において、組織的かつ協動的に推進するための体制を見直し再構成し、学力向上を図る。	学力向上部において、さらに分業化と協働化を図った「学力向上ロードマップ」を改善し、実施する。学びの実感があるふり返り活動の充実を図る。	学力向上部 教務主任	学力向上部の学力向上と学校研究や学習環境部において、それぞれの教職員は「学力向上ロードマップ」に沿って取り組んでいる。	【成果指標】 教職員が学力向上に向けて「学力向上ロードマップ」に沿って取り組めたか。	「学力向上ロードマップ」に沿って取り組めた教職員が A: 9割以上 B: 8割以上 C: 7割以上 D: 7割未満	教職員アンケートにより、7月と12月に評価する。	A	A	「学力向上ロードマップ」に沿って取り組むことができた。変更等あるときは早めに計画を見直す必要があった。今後は更にPDCAのAを中心に取り組んでいき、学力を向上させていく。
	目標達成を意識した授業づくりに努める。	課題とまとめを板書の中に位置づけ、児童と共有できるようにする。ペアやグループでの話し合い活動、ICTなどを活用し、学習の理解が深められるようにする。	学力向上部 研究主任	授業の中で、課題の確認、適用題やふり返りの時間を確保しているが、学びの深まりや次時へのつながりはやや弱い。	【成果指標】 毎時間の授業の中で、課題とまとめを提示し、学びを深める活動を行ったりふり返り活動を行ったか。	毎時間の授業で課題とまとめを提示し、理解を深める取組ができたかと答える教職員が A: 9割以上 B: 8割以上 C: 7割以上 D: 7割未満	教職員アンケートにより、7月と12月に評価する。	B	B	体育では、タブレットを自分の運動の振り返りや友達へのアドバイスを与える場面で活用することができた。めあてを明確にし、それに沿ったふり返りを意識した授業を他教科にも広げていく。
②生徒指導	様々な活動の中で、一人一人が友達よさを認め合い、居心地のよい学級・学校を目指す。	学年同士や上学年と下学年がお互いに認め合い思いやりの心を育てるため、学級活動・縦割り活動に加えて全校一斉遊びの日を設ける。	学習環境部 生徒指導主事	昨年度、各学級ではお互いに認め合う姿が見られたが、上学年と下学年が認め合う場面や姿は多いとは言えない。	【成果指標】 「学級や学校を楽しむために、互いに助け合う」ことができたか。	「学級・学校を楽しむために、互いに助け合うことができた」と答えた児童が A: 9割以上 B: 8割以上 C: 7割以上 D: 7割未満	児童アンケートにより、7月と12月に評価する。	A	A	「そう思う」「どちらかというと思う」が97%であった。全員が「そう思う」に移行するよう、学級活動や全校一斉遊びの日、学校行事等で助け合いの具体的な目標を立てさせ、きめ細かな指導・支援を行っていく。
	いじめの見逃さない・風通しのよい学校づくりを推進する。	毎月の児童理解の会や年3回のいじめアンケートを中心に、職員全体で子どもの発する小さなサインを見逃さない体制を充実させ、組織的に対応する。		昨年度から継続して取り組んでいるいじめ案件を中心に、児童理解の会やいじめアンケートを継続して実施している。以前の情報の共有もしている。	【成果指標】 アンケートや面談を通じて、SCやSSW、保護者と連携し、迅速で適切な対応ができたか。	積極的にいじめを認知し、迅速で適切な対応ができた教職員が A: 全教員 B: 8割以上 C: 7割以上 D: 7割未満	教職員アンケートにより、7月と12月に評価する。	A	A	児童の思いをつかむため、学担やSCによる個人面談を計画的に行い、休み時間には教職員による児童の様子を見守ることができた。その結果、積極的ないじめ認知と迅速適切な対応ができたので今後も継続していく。
③進路指導・キャリア教育	身近な人達と関わり、自分ができることを考え、目標達成に向けて取り組むことで、やり遂げた満足感を味わい、自己有用感を高める。	学校や学級のために考え、取り組む場面において、児童全員が活躍できる場を設け、できるようになったことや努力したことに対して価値づける。	学力向上部 教務主任	学校行事や学級づくりに関して、自ら進んで考え、取組もうとする児童は多いとは言えない。	【成果指標】 様々な役割の関係や価値を自ら判断し、やり遂げた満足感を児童は味わうことができたか。	様々な役割の関係や価値を自ら判断し、味わうことができた児童が A: 9割以上 B: 8割以上 C: 7割以上 D: 7割未満	児童アンケートにより、7月と12月に評価する。	A	A	各学年だけではなく、全校集会やいろいろな行事や学習経験を通して、全校で振り返りに取り組むことができた。児童一人ひとりが、キャリアパスポートを使い、これからの見通しを持って活動していく。
④保健管理	運動を推奨し、体力の向上に努める。	朝の会や帰りの会のマルチタイム、長休みのパワーアップタイム、体育授業を使って筋力の向上や体力増進、体幹の育成に努める。	学習環境部 体育担当	県や全国平均と比較すると、筋力が弱いという結果が出ている。	【成果指標】 5月の県平均を上回る児童の育成に努めたか。	5月の県平均を上回る児童が A: 8割以上 B: 7割以上 C: 6割以上 D: 6割未満	5月と11月の体力テストの結果より評価する。	D	B	取り組みが結果に反映され、効果を上げることができた。しかし、依然として全国平均にまだ届いていない児童がいるので、引き続き体育や休み時間等を活用して、筋力の向上を図っていく。
	基本的な生活習慣づくりを通して、健康な心身の保持・増進に努める。	保健指導や児童保健給食委員会の活動を通して、早寝早起き・歯みがきの取組を行う。長期休業中も家庭と連携し基本的な生活習慣の定着を図る。	学習環境部 養護教諭	学期中は9割以上の児童が、朝食を摂り、給食後の歯みがきができているが、長期休業になると生活習慣が乱れる児童が多い。	【成果指標】 各自で設定する生活習慣の目標（早寝早起き・歯みがき）を達成できたか。	自分の目標を達成できた児童が A: 9割以上 B: 8割以上 C: 7割以上 D: 7割未満	夏休み・冬休みぐんぐんカードより評価する。	A	A	児童委員会による活動や保健関係掲示物で、効果的に健康情報を届けることができた。今後も、実態に応じた保健指導や日常的な声掛け、委員会の取組を続けていく。
⑤安全管理	災害や不審者等に対する児童や教職員の対応実践力を高める。	警察署と連携した「防犯教室」、消防署と連携した「火災や地震・津波・浸水想定避難訓練」、保護者と連携した「児童引き渡し訓練」を実施し、緊急時の対応についての実践力向上を図る。	総務部 教頭	避難訓練等を計画的に実施し、児童の危機への対応能力を高めているが、継続して実施し、さらに危機に対応する能力を育てる必要がある。	【成果指標】 様々な状況に対して、職員や児童が適正かつ安全な避難行動ができたか。	安全確保のための組織的対応ができたかとする教職員が A: 9割以上 B: 8割以上 C: 7割以上 D: 7割未満	教職員アンケートにより、7月と12月に評価する。	A	A	避難訓練(火災)・シイカブ訓練・不審者対応訓練・引き渡し訓練・避難訓練(津波)を実施して具体的な避難行動や安全で正しい判断力を身につける取組を行い、安全確保のための組織的な対応ができた。今後も継続して危機に対応する能力を高めていく。
⑥特別支援教育	発達段階や特性に応じた適切な指導を行うとともに、それらを個性として互いに認め合う雰囲気づくりに努める。	支援が必要な児童について共通理解を図り、適切な支援をする。また、道徳の授業や人権週間など様々な機会をとらえ、互いを認め合うことの大切さを指導していく。	学力向上部 特別支援コーディネーター	支援が必要な児童について全職員が共通理解し、支援を行っている。しかし、児童が自分と異なる意見や立場を十分に尊重し合っているとはいえない。	【成果指標】 道徳の授業や人権週間等で互いを認め合うことができたという児童が、自分と異なる意見や立場を十分に尊重し、互いを認め合うことができたか。	道徳の授業や人権週間等で互いを認め合うことができたという児童が A: 9割以上 B: 8割以上 C: 7割以上 D: 7割未満	児童アンケートにより、7月と12月に評価する。	A	A	毎月気になる児童の様子や支援策を話し合い、全教職員で取り組んできた。人権週間には関連する本を紹介したり、全児童が人権標語を作ったりして人権についての理解は進んできた。しかし、すぐに行動にうつすことはむずかしいので、今後も道徳の授業や各場面で互いを認め合うことの大切さを指導していく。
⑦組織運営	各教職員が校務に責任を持ち、組織的に協働して学校目標の具現化に努める。	定期的に運営委員会や必要に応じて分掌部会を設け、組織的に協働して学校運営を図る。	総務部 教頭	少人数だからこそ組織的・協働的な体制を整え、運営委員会や分掌部会を計画的に開催して共通理解・共通実践することが必要である。	【成果指標】 運営委員会・分掌部会を活用し、組織的な取組が行えたか。	各分掌からの取組について、共通理解・共通行動できた教職員が A: 9割以上 B: 8割以上 C: 7割以上 D: 7割未満	教職員アンケートにより、7月と12月に評価する。	A	A	出張等により、予定を変更して会を行うことがあるため、主任が見通しを持った提案・評価等をし、全員で限られた時間を効率的に使う意識を高めていく。
	業務改善	教職員のタイムマネジメント力を高め、業務の効率化意識を高める。		日常業務でやるべきことを記録しておく「TODOリスト(軽重をつけて)」の作成を習慣化し、業務の計画性を高めて効率化を図る。	各教職員の担当する校務分掌が多岐にわたるため、計画的に業務を行うことで時間外勤務を減らすことが必要である。	【成果指標】 計画的な業務遂行に努めることで、毎月の時間外勤務が80時間を超えなかったか。	毎月の時間外勤務の合計が、平均で80時間を超えない教職員の割合が A: 8割以上 B: 7割以上 C: 6割以上 D: 6割未満	毎月の勤務時間記録より、9月と2月に評価する。	B	A
⑧研修	校内研修の充実を図り、授業改善や指導力向上に努める。	体育科の器械運動領域、特に跳び箱の指導についての授業研究を通して、授業改善につなげられるようにする。若プロ研修を計画し、組織的に取り組む。	学力向上部 研究主任 教頭	昨年度は、マット運動を中心に授業研究を行った。昨年度の取組を生かし、今年度の研修を充実させていくとよい。	【成果指標】 研究授業や校内研修を通じて、外部人材を活用して指導力向上が図られたか。	校内研修、授業研究において成果があったと感じる教職員が A: 9割以上 B: 8割以上 C: 7割以上 D: 7割未満	教職員アンケートにより、7月と12月に評価する。	A	A	体育科の跳び箱運動を中心に授業研究を行い、授業改善ができた。年度初めの外部人材を活用しての研修や、昨年度からの感覚づくりの運動の継続により児童の技能も向上してきた。
⑨保護者、地域との連携	日常の教育活動の開示や学校評価を通して、学校への信頼向上に努める。	学校と保護者、町づくり推進協議会とが連携し、教育活動や環境整備の向上を図る。	総務部 教頭	学校の教育活動への協力を惜しまない地域の方が大変多く、地域と共に行う行事も続いている。	【満足度指標】 保護者や地域の方が様々な教育活動を理解し満足しているか。	家庭や地域と連携を図って教育活動を行っていると感じた保護者が A: 9割以上 B: 8割以上 C: 7割以上 D: 7割未満	保護者アンケートにより、7月と12月に評価する。	A	A	HPや学校からのお便りによる発信の他に、PTA活動の見直しを図りながら保護者や地域の方と双方向に話し合う機会を工夫し、「地域に開かれた学校づくり」を推進していく。
⑩教育環境整備	よりよい学習・生活環境を目指し、施設・設備を整備する。	日常的に安全点検・備品管理に努め、施設・設備・備品等の適切な整備を行う。	総務部 教頭 事務	校舎の老朽化が懸念されるが、安全な学習環境整備に努める意識が高まっている。	【成果指標】 毎月、管理場所の担当者が安全確保と環境整備に努め、常に学習・生活環境が整備されているか。	安全確保・環境整備が整っていると感じた教職員が A: 9割以上 B: 8割以上 C: 7割以上 D: 7割未満	教職員アンケートにより、7月と12月に評価する。	A	A	定期的な安全点検によって、危険個所の早期発見と迅速な対応を心がけ、今後も安全な学習環境作りに努めていく。

学校関係者評価
 ・業務改善の現状は限界にきていると思われる。次年度は完全複式学級になり、さらに教諭が一人減となる中で新学習指導要領に対応しながら時間外勤務を80時間以内にすることは難しい。業務改善には定数改善が不可欠である。先生(常勤)の加配が無理であれば、教育支援員を2人市費で加配してもらえるように市議や区長会、町づくりでも働きかけをしていきたい。
 ・学校適正化に関する地域説明会は周知不足のため参加が少なかった。内容は学校統合後の良さの説明が多かったように感じた。小規模校の良さもしっかりと伝えたいと判断できるようにしてほしい。地域としては保護者の意見を優先していきたい。
 ・学校がなくなっても子どもは地域にいますので、地域の活動を活性化して、地域で子ども達を育てていきたい。